

第 2 章

荒川区のスポーツ活動の 現状と課題

第2章 荒川区のスポーツ活動の現状と課題

1 荒川区のスポーツ活動の現状

(1) 区のスポーツ活動

① 区のスポーツ事業等

区では、区民スポーツ大会をはじめとするスポーツイベントを、荒川区スポーツ協会やスポーツ推進委員等の協力を得て年間を通じて開催しています。平成4（1992）年度に区制60周年を機に始まった荒川リバーサイドマラソンは令和7（2025）年度で第32回目を迎え、子どもから高齢者まで最も多い年で2500人もの方が参加する区内最大のスポーツイベントに成長しました。そのほか、子どもたちが運動の楽しさを知るきっかけづくりとなるよう、ボッチャやモルックなどのニュースポーツを中心とした体験会を実施しているほか、各スポーツ団体が開催するイベントに対する支援も行っています。

② 区のスポーツ関連施設等

i. スポーツ施設

区のスポーツ施設は、屋内スポーツ施設が2施設、屋外スポーツ施設が6施設、合わせて8施設があり、区民が気軽にスポーツに親しむ環境を提供しています。

○ 屋内スポーツ施設

昭和60（1985）年に開館した荒川総合スポーツセンターは、区民のスポーツ活動の中核となる施設であり、区民スポーツ大会などの大会会場として利用されている他、各種スポーツイベントも行われています。また、幅広いメニューのスポーツ教室も展開しており、区民に人気を博しています。

令和元（2019）年度に大規模リニューアル工事を実施し、設備の更新に合せて、施設全体のバリアフリー化も行いました。

荒川遊園スポーツハウスは、平成5年（1993）に荒川総合スポーツセンターに次ぐ第2の屋内スポーツ施設として開館し、温水プールやトレーニングルーム等の個人利用や各種教室事業を中心に区民に親しまれてきました。

施設・設備の老朽化の解消と合わせて、高齢者のフレイル予防やパラスポーツなど障がい者のスポーツ利用の促進、子どもや子育て世代が気軽に利用できる設備の充実等を目的として、令和9（2027）年度のリニューアルオープンに向けて、令和7（2025）年度から、改修工事に着手しています。

○ 屋外スポーツ施設

区内各所に、野球場、サッカー場、庭球場、多目的広場などを備える屋外スポーツ施設が6施設あります。

これらの施設は、区民スポーツ大会などの各種大会会場として活用されているほか、近年

では、高齢者を中心にグラウンドゴルフ等での利用も増えてきています。

それぞれの施設の開設以来、必要な修繕を実施するとともに、東尾久運動場多目的広場の人工芝敷設や夜間照明設置、区民運動場多目的広場への夜間照明設置等、利用環境の更なる向上に向かって取り組んでいます。

ii. 公園施設

区の公園には、野球場や庭球場を備える公園が2施設、防球ネットを備えたボール遊びができる公園が9施設あるほか、アスレチックや複合遊具など子どもたちが自由な発想で遊びながら体を動かせる場となっています。

今後、新たに整備する公園においても、スポーツ利用も視野に入れて、検討を行っていきます。

iii. 学校施設

区内の小中学校の校庭や体育館は、教育活動に支障がない範囲において、子どもたちの遊び場のほか、地域のスポーツ活動やイベントなどで日常的に多くの方に利用されており、地域のコミュニティ拠点となっています。施設の老朽化が進んでおり、今後計画的に改修や建替えを行う予定です。

iv. ふれあい館等

乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代が交流し、区民の自主的な活動や地域コミュニティの拠点であるふれあい館等では、多目的室を備え、スポーツやダンスもできる環境が用意されています。

v. 放課後子ども教室（にこにこすくーる）

放課後の子どもたちの安全・安心な活動拠点として、地域の方々の協力を得て、実施校に在籍する全児童に対し、遊びをはじめ、勉強やスポーツ・文化活動などの交流を図る場となっています。

（2） スポーツ関連団体等

荒川区には、人と人との結び付きを大切にする温かい地域社会が息づいており、区におけるスポーツの推進においても、この地域性は欠くことのできない大きな力となっています。荒川区には様々なスポーツ関連団体があり、それぞれの団体が活発に活動することで区民のスポーツ振興に大きな役割を果たしています。

① 荒川区スポーツ協会

昭和26(1951)年の設立以来、区内の28のスポーツ競技団体（令和7(2025)年度現在）を統括するとともに、バックアップを行う区内最大のスポーツ団体です。

各加盟競技団体において区民スポーツ大会各競技の運営に当たっているほか、各団体主催の大会実施、ジュニア育成事業の展開も行っています。また、親子向けや主に子育て世代をターゲットとした独自のスポーツイベントも実施しており、区と緊密に連携しながら区のスポーツ

振興に大きな役割を果たしています。

平成28(2016)年には法人格を取得し、一般社団法人として社会的、法的にも自主自立した団体として活動を継続しており、令和7(2025)年にはスポーツ基本法の改正に基づき、名称をこれまでの荒川区体育協会から荒川区スポーツ協会に改めました。

② 荒川区スポーツ推進委員

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に基づき区が委嘱する非常勤職員であり、スポーツ基本法の理念に基づき区民とスポーツをつなぐコーディネーターとして活動しています。

運動の経験のない人、運動が苦手と感じている人でも気軽に参加できるニュースポーツや、障がいの有無にかかわらず共に取り組めるパラスポーツなどの体験会等のイベントを主催し、区民がスポーツへの第一歩を踏み出すために大きな役割を果たしています。

そのほかにも、スポーツひろばの運営や各種ニュースポーツの指導員としての派遣などを通じて、地域におけるスポーツ活動の普及にも尽力しています。

③ 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブは、学校等の身近な場所を利用して、地域住民自らが主体的に企画・運営し、年齢、関心、技術等それぞれの志向・レベルに応じたスポーツを通じた地域の多世代交流などの活動を行う団体です。

区内には、平成22(2010)年11月に設立した南千住スポーツクラブがあり、汐入小学校・汐入東小学校を拠点として、14種目のスポーツ教室が展開されており、近隣に住む子どもから高齢者まで約260名の会員が活動しています（令和7(2025)年10月末現在）。

現在、区において2か所目の総合型地域スポーツクラブの設立に向けて、指導者となる人材や対象とする地域等、検討が続けられています。

④ 東京都障害者スポーツ指導員協議会荒川

障がいの有無、年齢や性別、国籍等を越えて、パラスポーツを楽しみながら行う活動をしています。

区が実施する、パラスポーツのボランティアを養成するパラスポーツサポーター養成講習会や、荒川リバーサイドマラソンにおける障がい者の伴走支援、知的障がいがある方を対象にスポーツ等の各種活動を行うさくら教室にもご協力いただいています。

⑤ 荒川ころばん体操リーダー

荒川ころばん体操・せらばん体操・あらみん体操は、荒川区と首都大学東京（現東京都立大学）が共同開発した転倒予防や筋力アップのためのオリジナルの体操です。

ふれあい館等20か所の区内施設において、「荒川ころばん体操リーダー」が、ボランティアで運営しており、上記のオリジナル体操に加えて健康に役立つ情報取得や参加者同士の交流の場となっています。

⑥ 荒川区高年者クラブ連合会

区内では、64クラブ、約4,300人（令和7(2025)年4月現在）の会員が、健康で明るく過ごすために様々な活動を行っています。活動内容は会員の教養の向上、健康増進、地域の清掃

や園芸、街なか花壇などの社会奉仕活動、会員相互の親睦など様々です。また、グラウンドゴルフやパタンクなど高齢者の軽スポーツの普及とクラブ間の交流も図っています。

⑦ 地域のスポーツクラブ・サークル（社会教育関係団体）

区内には、気の合う仲間等で構成するスポーツクラブやサークルが数多く存在しており、主に学校体育館や校庭を会場として活動しています。区に社会教育関係団体として登録しているクラブ・サークルは、令和7(2025)年10月現在で17種目、413団体に上っています。

(3) 大学・研究機関等

① 大学等

区内には、東京都立大学荒川キャンパス（以下「都立大」という。）と、東京都立産業技術高等専門学校荒川キャンパスがあります。

都立大は、専門分野が福祉や医療等であり、これらの分野で連携を進めるべく、平成30(2018)年に健康づくりに関する包括連携協定を締結し、定期的に関係者会議において意見交換を行うとともに、ころばん体操等の実施会場として都立大の施設を利用したり、都立大でパラスポーツイベントを行う際は、区が後援を行ったり、相互に連携を図りながら事業を行っています。

東京都立産業技術高等専門学校荒川キャンパスは、南千住汐入の再開発エリアに位置し、体育館やグラウンド等のスポーツ施設の区民利用で連携を行っています。

② 研究機関

区内には、義足などの義肢や装具を作成し、リハビリテーションを行う、民間における国内唯一の専門組織である公益財団法人鉄道弘済会「義肢装具サポートセンター」があります。

区で実施するパラスポーツイベントである「パラスポーツフェスティバル」などを行う際には、義肢の展示や義足での歩行体験など、障がいへの理解を深める取組に協力いただくなど連携を行っています。

(4) 民間スポーツ施設

区内には、温水プールやトレーニングマシンを備えた様々なタイプの民間スポーツ施設があり、24時間営業のスポーツジムやパーソナルジム、ピラティスやヨガのスタジオなどを合わせると100近くの施設が運営されています。また空手道場やボクシングジムなどの格闘技のできる施設も多く、スケートボードやスポーツクライミングなどのアーバンスポーツができる施設もあります。

2 スポーツ推進プランの取組状況

平成28(2016)年3月に策定した荒川区スポーツ推進プランで掲げた基本目標ごとにとり組状況を振り返ります。

(1) 基本目標1 気軽にスポーツに親しめるようスポーツの裾野を広げる

誰でも参加できる場をつくり、身近なスポーツ環境を整えることで、区民が気軽にスポーツに触れ、体験する機会や場の充実を図る取組を進めました。

【主な事業】

荒川リバーサイドマラソン、パラスポーツフェスティバル、スポーツひろば、スポーツセンター・スポーツハウス事業、ふれあい館のスポーツ事業、放課後子ども総合プラン等事業 等

【取組状況等】

区や関連団体などの主催で様々なスポーツ事業を展開するとともに、スポーツセンターの大規模改修などにより、区民にスポーツに接する機会を提供し、スポーツ施設の利用環境の向上を図りました。

引き続き、区民が参加しやすいスポーツイベントを企画・運営するとともに、パラスポーツイベントへの障がいのある方の参加促進や大会形式へのレベルアップなどの新たな取組が求められています。また、老朽化した荒川遊園スポーツハウスの大規模改修により誰もが使いやすい施設にしていくとともに、地域バランスを考慮した新たな施設整備等も求められています。

(2) 基本目標2 生涯健康で暮らせるようスポーツで健康増進を図る

区民の運動習慣をサポートし、スポーツを通じて体力の維持向上を図り、子どもから高齢者まで、生涯健康で暮らせるよう健康の増進を図る取組を進めました。

【主な事業】

ころばん・せらばん・ばん座位体操、親子で体力アップ、ラジオ体操の振興、荒川区健康ポイントアプリ「あらチャレ」、No!メタボチャレンジャー、高年者クラブスポーツ事業支援 等

【取組状況等】

親子で体力アップ事業やころばん体操など、子どもから高齢者までそれぞれの属性に応じて参加できる様々な事業の実施により、生涯の運動習慣をサポートする取組を行ってきました。また、令和7(2025)年度に荒川区健康ポイントアプリ「あらチャレ」を開始し、アプリ参加の皆様に、楽しみながら気軽に健康増進に取り組んでいただいています。

今後一層のスポーツ振興を図っていくため、余暇時間や体力などライフステージごとに変化する要因を考慮し、年代や障がいの有無等、それぞれスポーツに取り組む方の特性に応じた施策実施が求められています。また、ころばん体操など、特に高齢者向け事業において、高齢者の外出機会増加を図る取組が求められています。

(3) 基本目標3 スポーツのレベルアップのため選手や指導員を育成する

アスリートや指導員、ボランティア等の活動を支援・育成し、スポーツのレベルアップにつながる取組を実施しました。

【主な事業】

アスリートレベルアップ塾、スポーツ推進委員活動、パラスポーツサポーターや初級パラスポーツ指導員の養成、部活動推進、青少年スポーツ活動支援、教育委員会褒章 等

【取組状況等】

オリンピックなどの国際大会や海外プロリーグで活躍する日本人選手を目にする機会が増え、競技力の向上を目指す機運が高まるとともに、アーバンスポーツなど新たなスポーツへの注目も高まりました。区としては、特に子どもたち向けにスポーツのレベルアップにつながる取組を実施しており、今後、区民のスポーツニーズの動向も踏まえながら推進していくことが求められています。

中学校の部活動については、全国的に部活動指導員の活用や学校間で合同練習等を行う地域連携、地域クラブ活動に移行する地域移行などの新しい取組が始まっています。区でも地域移行に関してモデル事業を開始したところであり、今後のあり方について検討をしていく必要があります。

(4) 基本目標4 地域の力を高めるため人や地域をスポーツでつなぐ

地域の力を高めるため、スポーツイベントの開催や団体等との連携を図り、人や地域をスポーツでつなぐ取組を実施しました。

【主な事業】

スポーツ協会への支援、区民ハイキング、地域のスポーツイベントへの支援、友好交流都市等とのスポーツ交流事業 等

【取組状況等】

スポーツによる地域コミュニティ活性化の役割に着目し、地域スポーツ団体への支援や仲間づくり、交流事業などの取組を行いました。

少子化やライフスタイルの多様化、インターネットの普及等に伴い、区民のスポーツ活動の状況は多様化しており、スポーツ協会加盟団体に所属しないスポーツチームやサークルが多く存在しています。今後、そうした活動について区としてどう関われば区全体としてのスポーツ振興につなげていくか検討していくことが求められています。

3 荒川区スポーツ意識調査の結果

区では、本プラン策定の基礎資料とするため、区民のスポーツに関する意識や実態についてのアンケート調査「荒川区民スポーツ意識調査」を実施しました。意識調査は、以下の3種類を実施しました。

○一般向け調査（区内在住の18歳以上から2,500名を無作為抽出）

○障がい者向け調査（障害者手帳を持つ区内在住の18歳以上から1,000名を無作為抽出）

○小学生・中学生・高校生向け調査（区内在住又は在学中の区立の小学校、中学校及び区内の高等学校の学生）

各アンケート結果の概要は次のとおりです。

（1）一般向け調査

本調査では、区内在住の18歳以上から、2,500人の方を無作為に抽出してアンケートを実施し、673件（26.9%）の方から回答を得たものです。

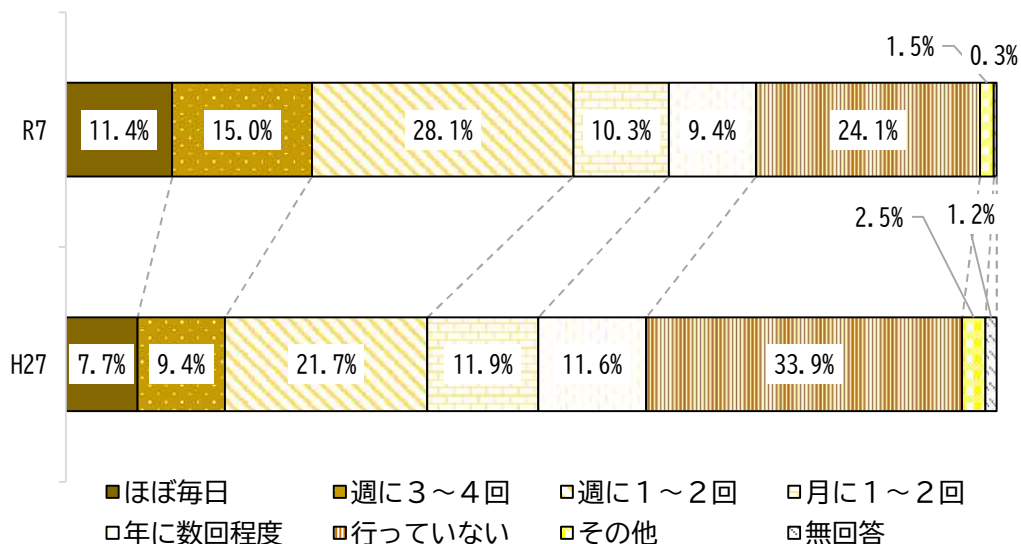
① スポーツの実施状況について（詳細は資料編2～20ページを参照ください。）

<スポーツに対する考え方>

スポーツや運動は、幸福で豊かな生活を送るために必要であると答えた方は9割を超えていました。

<スポーツ実施状況>

週1回以上スポーツを実施している割合は54.5%となっており、令和7（2025）年度までの目標値50%を上回りました（下棒グラフ参照）。



<行っているスポーツ・今後やりたいスポーツ>

「現在実施しているスポーツ」で回答割合が最も多かったのは「ウォーキング、散歩（街歩き、ペットの散歩等を含む）」（65.2%）であり、性別や年代別で見ると、男性、女性どの年代においても回答割合が最も多くなりました。一方、「今後やりたいスポーツ」で回答割合が多かったのも「ウォーキング、散歩（街歩き、ペットの散歩等を含む）」（36.0%）であり、次いで「体操（ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、器械体操、ラジオ体操、ころばん体操等を含む）」（29.6%）、「水泳」（16.6%）でした。

<スポーツの実施場所>

日ごろスポーツや運動を行っている場所としては、「歩道や遊歩道」の割合が最も多く、6割弱でした。

<スポーツを行う理由・誰とスポーツを行うか>

スポーツを行う理由としては「健康・体力づくり」で約71%、次いで「運動不足の解消」で約59%、「楽しみ、気晴らし、ストレス解消」の割合で約56%となりました。また、「誰と行っているのか」という設問に対して、「一人で」行っていると回答した割合が7割弱でした。

<スポーツを行っていない理由>

スポーツや運動を「行っていない」、あるいはスポーツの実施頻度に「満足していない」理由としては、「仕事、介護、育児等で忙しく時間がない」と回答した割合が5割弱と、最も多く、特に子育て世代や働き盛り世代がスポーツや運動を行っていないことが分かりました。

<スポーツ活性化のために区が行うべき施策>

スポーツ活動をより活性化するために必要な区の施策としては、「公共スポーツ施設の整備・充実」の割合が4割弱で最も多く、次いで「子ども（小・中学生）の体力・運動能力の向上」、「高齢者のスポーツによる健康寿命の延伸」の割合が多くなりました。

② 区等のスポーツイベントの参加状況について（詳細は資料編 21～23 ページを参照ください。）

応援や観覧も含み、この1年間で区やスポーツ協会主催のスポーツイベントに「参加したことがある」と回答した方は1割弱でした。

「参加したことがある」理由で最も回答割合が多かったのは、「家族や友人とともに楽しめる」が5割弱で、次いで「イベントの内容に興味があった」、「参加費が安い（かからない）」が4割弱でした。

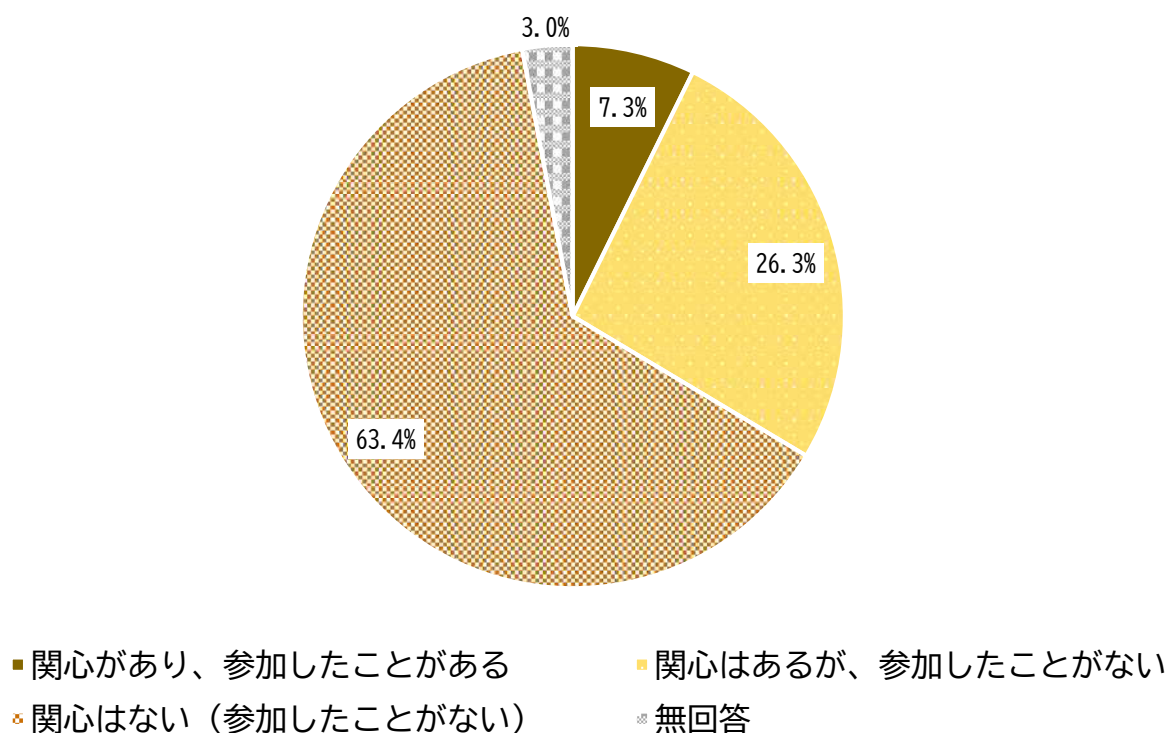
一方、「参加したことがない」理由で最も回答割合が多かったのは、「開催していることを知らなかった」で5割以上となりました。

③ スポーツを支える活動について（詳細は資料編 24～30 ページを参照ください。）

<スポーツボランティアに関する関心>

スポーツや運動の指導・審判、スポーツイベントのボランティア等のスポーツを支えるボランティアに “関心がある”（「関心があり、参加したことがある」及び「関心はあるが、参加したことがない」を選択した方）という回答者は3割程度となりました（下図グラフ参照）。

“関心がある”という回答者のなかで、参加する（または参加したい）目的として、最も回答割合が多かったのは、「自らの健康づくりや生きがいづくり」（57.5%）、次いで「地域の交流の場づくり」（41.2%）、「社会貢献」（38.9%）となりました。



<スポーツの担い手の認知度>

「スポーツ推進委員」について、「活動内容について知っている」の回答割合は 3.7%、「名前は聞いたことがある」の回答割合は 17.5%となりました。さらに、「参加したい（参加している）」、「話を聞いてみたい」と回答した方が2割弱でした。

「荒川区スポーツ協会」について、「活動内容について知っている」の回答割合は 5.3%、「名前は聞いたことがある」の回答割合は 17.2%となりました。

「地域スポーツクラブ」について、「活動内容について知っている」の回答割合は 9.1%、「名前は聞いたことがある」の回答割合は 22.0%となりました。

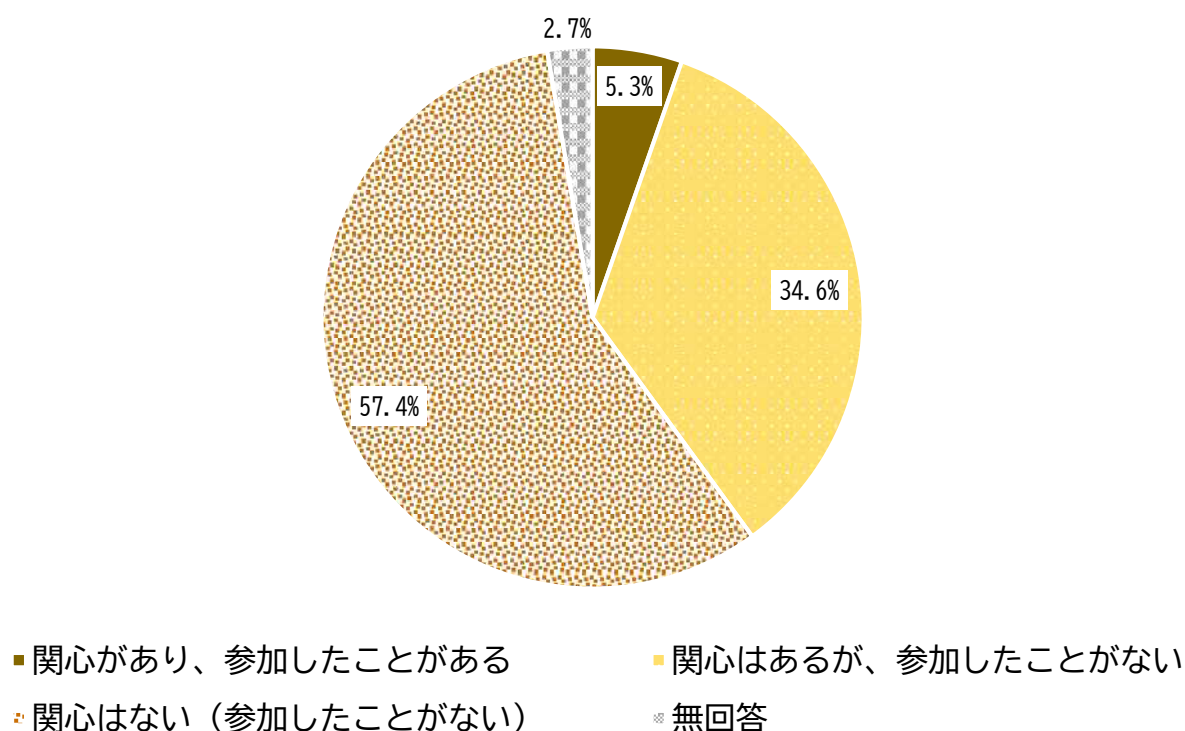
いずれのスポーツの担い手に関しても認知度は、3割前後となっていました。

④ パラスポーツについて（詳細は資料編 31～33 ページを参照ください。）

パラスポーツに関心や参加経験（応援や観覧も含む）について、「関心があり、参加したことがある」が 5.3%、「関心はあるが、参加したことがない」が 34.6%と“関心がある”は約 40%であり、令和 7（2025）年度までの目標値である 50%を下回りました（下図グラフ参照）。

“関心がある”回答者の中で、関心のある種目のうち最も回答割合が多かったのは、「車いすテニス」（46.5%）、次いで「ボッチャ」（46.1%）、車いすバスケットボール（45.0%）であり、いずれも 5 割弱となりました。

「関心はない（参加したことがない）」と回答した方の中で、パラスポーツに関心がない理由として最も多かったのは、「身近にパラスポーツに関わる人がいない（知らない）」で 4 割程度となりました。



⑤ 区立スポーツ施設の利用状況等について（詳細は資料編 34～37 ページを参照ください。）

区立スポーツ施設の利用状況について、いずれかの施設を利用したことがあると回答した方のなかでは、「荒川総合スポーツセンター」が最も多く、5 割程度でした。

区立スポーツ施設を利用している回答者の施設に対する満足度について、「満足している」、「まあ満足している」と回答した方は約 8 割でした。

一方で、不満があると回答した方について、その内容は、「利用可能な時間帯が限られている」、「施設内の設備・備品等が劣化又は不足している」がいずれも約 45%で最も多い回答でした。

今後区立スポーツに対して望むこととして、「身近な場所への施設の増加」（41.3%）の回答割合が最も多く、次いで「良好な衛生環境の維持」（29.1%）、「より一層の利用手続き、予約方法の簡素化」（22.6%）でした。

(2) 障がい者向け調査

本調査では、障害者手帳を持つ区内在住の 18 歳以上から、1,000 人の方を無作為に抽出してアンケートを実施し、302 件（30.2%）の方から回答を得たものです。

① 障がいの状況について（詳細は資料編 43～46 ページを参照ください。）

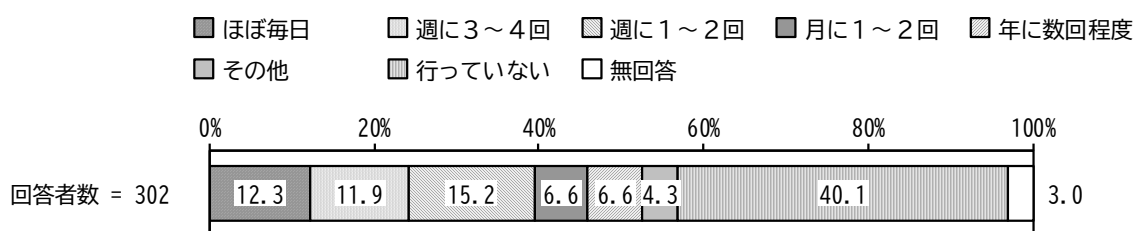
幸福で豊かな生活を送るうえで、スポーツ活動を必要であると回答している割合は 9 割弱、必要でないと回答している割合は 1 割程度でした。

持っている手帳については、「身体障害者手帳」の割合が 67.5%、「精神障害者保健福祉手帳」の割合が 23.2%、「愛の手帳」の割合が 19.2%でした。

② スポーツの実施状況について（詳細は資料編 47～70 ページを参照ください。）

<スポーツの実施頻度と満足度・スポーツを行わない理由>

日ごろスポーツや運動を行っている実施頻度について、「週に 1～2 回」の割合が 15.2%と最も高く、次いで「ほぼ毎日」の割合が 12.3%、「週に 3～4 回」の割合が 11.9%でした。また、「行っていない」と回答した方の割合が約 40%でした（下棒グラフ参照）。この実施頻度について満足しているとの回答が 62.2%、満足していないとの回答が 25.0%となりました。スポーツや運動を「行っていない」あるいは実施頻度に「満足していない」という回答した理由を調査したところ、「体力や体調に不安がある」の割合が最も高く、36.0%でした。



<行っているスポーツ・今後やりたいスポーツ>

どのようなスポーツを行っているかについては、「ウォーキング、散歩（街歩き、ペットの散歩等を含む）」の割合が 64.5%と最も高く、次いで「体操（ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、器械体操、ラジオ体操、ころばん体操等を含む）」の割合が 28.5%、「室内運動器具（マシンジム、バランスボール等）による運動」の割合が 12.2%でした。

また、今後やってみたいスポーツを調査したところ、「ウォーキング、散歩（街歩き、ペットの散歩等を含む）」の割合が最も高く、次いで「体操（ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、器械体操、ラジオ体操、ころばん体操等を含む）」の割合が 20.5%、「水泳」の割合が 16.9%でした。

<障がい者のスポーツの活動活性化のために重要なこと>

障がい者のスポーツ活動をより活性化するために重要なことについては、「スポーツ施設までの移動手段の確保」の割合が最も高く、3 割程度となりました。

③ 区立スポーツ施設について（詳細は資料編 71～73 ページを参照ください。）

区立スポーツ施設の利用状況について、最も回答割合が多かったのは、「荒川総合スポーツセンター」で4割程度でした。また、いずれの施設も「利用したことがない」と回答した方も4割程度でした。区立スポーツ施設を利用していると回答した方の中では、7割弱が満足しているという結果になりました。

区立スポーツ施設に望むことについては、「利用手続き、予約方法の効率化、見直し」の割合が最も高く、2割程度でした。なお、区立スポーツ施設を利用するうえで最も困っていること、改善してほしいことについて、主な自由意見としては、「施設数の増加」、「施設までの移動手段の確保」、「職員・スタッフの接遇、指導力の向上」などが挙がりました。



写真・イラスト掲載予定

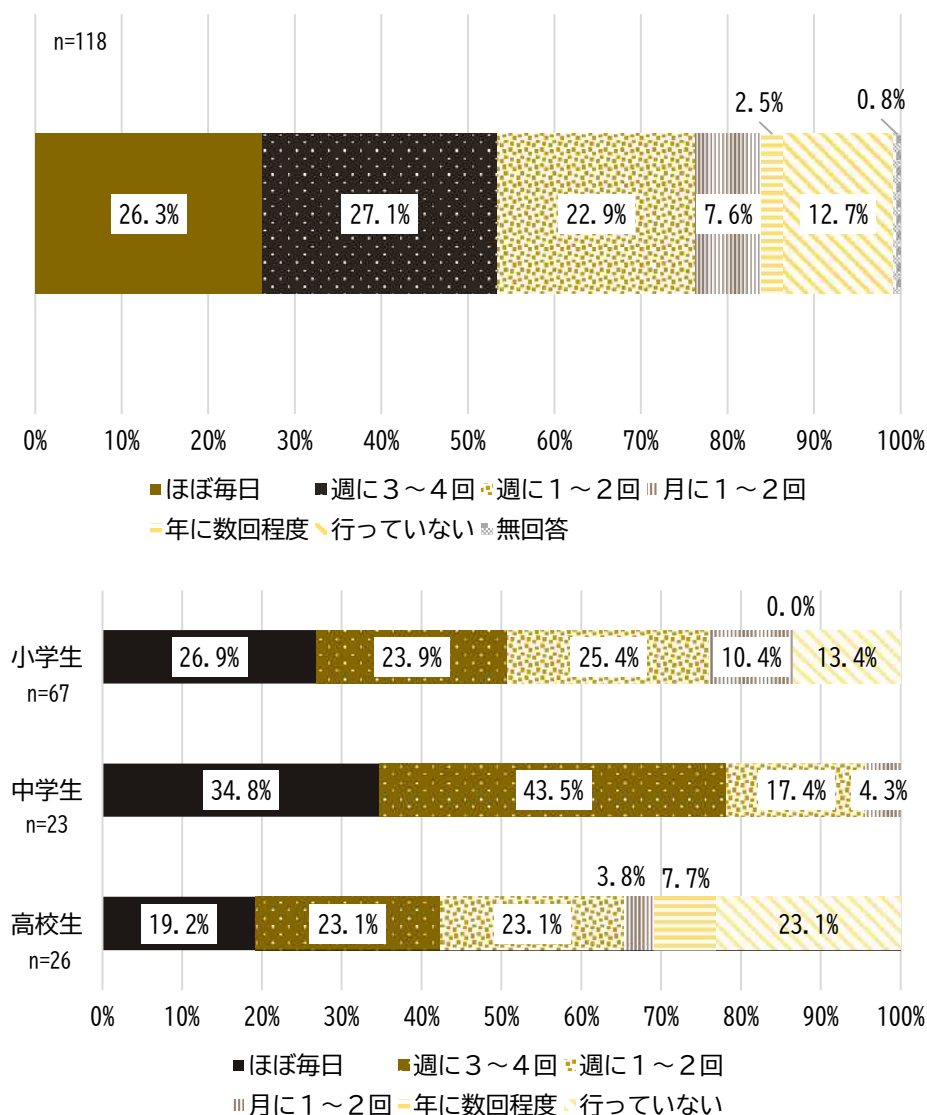
(3) 小学生・中学生・高校生向け調査

本調査は区内在住あるいは在学中の区立の小学校、中学校、区内の高等学校の学生を対象とし、各学校を通してアンケートへの回答を呼びかけ 118 件の回答を得たものです。

① スポーツの実施状況について（詳細は資料編 78～86 ページを参照ください。）

<スポーツ実施状況>

学校の体育の授業以外での、スポーツの実施状況については、「週に3～4回」と回答した方が 27.1%と最も多く、次いで「ほぼ毎日」と回答した方が 26.3%でした。学年別に見ると、中学生の中で「行っていない」と回答した方はいませんでした（下棒グラフ参照）。



<行っているスポーツ・今後やりたいスポーツ>

「行っているスポーツ」について、小学生の回答割合が最も多かったのは「おにごっこ、かくれんぼ、カンけり、鉄棒、ぶらんこ」(37.9%)、次いで「水泳」(29.3%)、「サッカー、フットサル」(20.7%)でした。

中学生の回答割合が最も多かったのは「バドミントン」(26.1%)、次いで「筋力トレーニング」(21.7%)、「サッカー、フットサル」(13.0%)でした。

高校生の回答割合が最も多かったのは「バドミントン」(25.0%)、次いで「サッカー、フットサル」、「テニス、ソフトテニス」、「バスケットボール(3on3を含む)」、「柔道、空手、テコンドー、合気道」、「自転車あそび」(いずれも15.0%)、「バレーボール」、「体操(軽い体操・ラジオ体操など)」(いずれも10.0%)でした。

「今後やりたいスポーツ」について、小学生の回答割合で最も高かったのは、「卓球」(25.4%)、次いで「バドミントン」、「ボウリング」(いずれも22.4%)、「柔道、空手、テコンドー、合気道」、「釣り」(いずれも19.4%)でした。

中学生の回答割合で最も高かったのは、「テニス、ソフトテニス」(34.8%)、次いで「バドミントン」、「eスポーツ」(いずれも26.1%)、「卓球」、「剣道、薙刀」(いずれも21.7%)でした。

高校生の回答割合で最も高かったのは、「釣り」(26.9%)、次いで「卓球」(19.2%)、「バスケットボール(3on3を含む)」、「筋力トレーニング」、「剣道、薙刀」、「弓道、アーチェリー」、「キャンプ」、「おにごっこ、かくれんぼ、カンけり、鉄棒、ぶらんこ」、「eスポーツ」(いずれも15.4%)でした。

<スポーツの実施場所>

「実施しているスポーツ」を行った場所について、最も回答割合が多かったのが、「学校の体育館・校庭」(42.7%)、次いで「広場や公園」(32.0%)、「スポーツセンターや南千住野球場などの区のスポーツ施設」(27.2%)でした。

<スポーツを行う理由・行わない理由>

「実施しているスポーツ」を行う理由について、「楽しみ」(51.5%)、次いで「健康・体力づくり」(48.5%)、「自分の技術力向上・能力の向上」(40.8%)でした。

一方、スポーツを「行っていない」と回答した方の中で最も割合が多かったのは、「特に理由はない」(33.3%)、次いで「その他」(面倒くさい、塾や受験勉強で忙しいなど)、「体力に自信がない」(いずれも26.7%)、「一緒に行く仲間がいない」(20.0%)が多くなりました。

スポーツや運動のクラブやサークルなどの所属の状況については、最も回答割合が多かったのは、「地域やクラブのサークル」(18.6%)、次いで「民間のスポーツクラブ」(11.0%)、「学校のサークル」(10.2%)が多くなりました。

② 区のスポーツ施設について (詳細は資料編 87～90 ページを参照ください。)

区立スポーツ施設の利用状況について、いずれかの施設を利用したことがあると回答した方のなかで、最も回答割合が多かったのは、「荒川総合スポーツセンター」(65.3%)でした。

区立スポーツ施設を利用していると回答した方の中では、9割程度が満足をしているとの回答でした。

荒川区にないスポーツ施設で、「あったらいいなと思うスポーツ施設」に関しては、小学生で最も回答割合が高いのは「ボウリング場」、「その他」（いずれも 26.9%）、次いで「スケートボード場」、「ドローンを飛ばすことができる施設」（いずれも 23.9%）、「ダイビングプール」、「壁打ちができる場所」（いずれも 22.4%）でした。

中学生で最も回答割合が高いのは「e スポーツができる施設」、「ボウリング場」（いずれも 26.1%）、次いで「クライミングのできる壁」、「400m の陸上トラック&フィールド」、「アーチェリー場」（いずれも 21.7%）、「バッティングセンター」、「壁打ちができる場所」、「その他」（いずれも 17.4%）でした。

高校生で最も回答割合が高いのは「e スポーツができる施設」（30.8%）、次いで「アーチェリー場」、「その他」（いずれも 15.4%）、「クライミングのできる壁」、「400m の陸上トラック&フィールド」、「ドローンを飛ばすことができる施設」、「壁打ちができる場所」、「ボウリング場」（いずれも 11.5%）でした。



写真・イラスト掲載予定

4 荒川区内の主なスポーツ団体へのヒアリング

本プランの策定にあたり、荒川区スポーツ協会、荒川区スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ、東京都障害者スポーツ指導員協議会荒川等のスポーツ関連団体にも、区民のスポーツ活動を支える担い手として、ヒアリングを実施しました。

その結果、各団体の活動をけん引する役員等の高齢化に伴う将来的な担い手の確保や、実施事業等への区民の興味・関心の向上について、各団体が共通して課題として捉えていることがわかりました。



写真・イラスト掲載予定

5 解決すべき課題

本章「2 スポーツ推進プランの取組状況」、「3 荒川区スポーツ意識調査の結果」を踏まえ、本区の今後のスポーツの推進に向けて、優先的に取り組むべき重要課題として大きく以下の3点に整理します。

課題1：スポーツへの参加機会の拡大と多様なニーズへの対応

区民全体のスポーツ実施率は一定向上しているものの、子育て世代や働き盛り世代など忙しく時間がない方や、障がいのある方など、それぞれのスポーツに取り組む主体に応じて運動機会を提供し、さらにスポーツを通じて健康増進を図るにあたっては、まだ改善の余地があります。また、スポーツイベント等の情報発信力の強化と、パラスポーツへの物理的・精神的バリアの解消等の取組が必要です。

課題2：地域コミュニティにおけるスポーツの活用とスポーツを支える人材の育成

スポーツは、地域活性化を促進する有力なツールとなりますが、地域活動の担い手の高齢化や、スポーツ団体・地域スポーツクラブの認知度の低さといった課題が見られます。特に子どもたちや障がいのある方のスポーツ活動には、それらを支えるスポーツボランティアの存在が必要不可欠であり、スポーツを通じて人々のつながりを深め、地域の活力を高めるためには、新たな担い手の確保と育成、そして活動支援が不可欠です。

課題3：スポーツ環境の充実と利便性の向上

区立スポーツ施設に対して、老朽化解消やより身近な場所への施設整備、障がい者の利用環境向上、そして誰もがスポーツ施設を利用しやすくするための利用方法の改善などが求められています。また、多様化するスポーツニーズへの対応や多忙でスポーツ施設を利用できない方へのスポーツ環境の提供も課題となっています。

本プランでは、荒川区のスポーツを将来にわたって発展させていくために、これらの課題解決に向けた方策を検討し、戦略的に各施策を実施します。



写真・イラスト掲載予定